

基本情報

試験名	閉じこもり高齢者に対するACTプログラムの有効性に関する研究
試験簡略名	閉じこもりに対するACT
試験実施地域	京都, 日本

対象疾患

対象疾患名	閉じこもり
-------	-------

目的

目的1 (Narrative)	高齢者の活動性に対するACTの有効性を明らかにする
目的2 (Basic)	有効性
試験の性質1	探索的
試験の性質2	

評価

主要アウトカム	活動量(1.5METs以上の活動に従事した10秒インターバル/総観察インターバル数)
副次アウトカム	行動の範囲(GPSロガーによって採取), 活動の種類(自己記入式の活動記録表により把握)老人用うつ尺度短縮版, 日本語版Medical Outcomes Study Short Form(SF-36), 日本語版Acceptance & Action Questionnaire-II, 日本語版Cognitive Fusion Questionnaire, 日本語版Five Facet Mindfulness Questionnaire
試験の種類	介入
分析計画	主要アウトカム, 副次アウトカムの継時的評価(ベースライン期のデータと介入期以後のデータをグラフ化したものをレベル, 変動性, トレンドの観点から視覚的に分析する), 線形混合モデルによる処遇効果の統計的検定

試験デザイン

基本デザイン	非同時性多層ベースライン法による一事例の実験デザイン
ランダム化	なし
ランダム化の単位	なし
ブラインド化	なし
コントロール	なし
層化別	なし
試験実施施設の考慮	なし
ブロック化	なし

介入

群数	1
介入目的	生活の質の向上, 適応的な行動の頻度の増大
介入種類	アクセプタンス & コミットメント・セラピー(ACT)による介入
介入1	ACT
介入2	
介入3	
介入4	

適格性

年齢 下限	65
年齢 上限	なし
性別	不問
選択基準	1)外出頻度が週1回以下であり, かつ 2)老人用うつ尺度短縮版の得点が5点以上である
除外規準	1)Mini-Mental State Examination(MMSE)の得点が23点以下である, もしくは2)総合的移動能力のレベルが3~6である, もしくは3)精神病または精神症状を合併しており, 研究への参加が困難とされる
目標参加者数	8

責任研究者

責任研究者 武藤 崇
所属組織 同志社大学
所属部署 心理学部
住所 京都市多々羅都谷1-3
電話 0774-251-4875(研究室直通)
e-mail takamoto@mail.doshisha.ac.jp

試験問い合わせ窓口

担当者名 橋本光平
組織名 同志社大学大学院
部署名 心理学研究科
住所
電話 075-251-3282(代)
e-mail dko0251@mail2.doshisha.ac.jp

実施責任組織

実施責任組織 同志社大学心理学部

研究費組織

研究費提供組織 同志社大学
組織区別 同志社大学
研究費拠出国

その他関連組織

共同実施組織 有料老人ホーム 京都ゆうゆうの里
その他の研究費提供組織なし

試験進捗状況

試験進捗状況 データ収集中
プロトコル確定日 2015/6/30
登録・組み入れ(予定)日 2015/6/30
フォロー終了(予定)日 2015/12/31
入力終了(予定)日 2016/3/31
データ固定(予定)日 2016/3/31
解析終了(予定)日 2016/3/31